

(6)『古今諸留記』

江戸時代末期に大湫宿の間屋を務めた「笹屋」の小木曾文蔵が大湫宿の歴史などを書き留めた書物です。記録は順不同で重複もありますが、最新の記録は嘉永元年（1848）です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…宿並み2町55間、家数54軒、[元禄6年（1693）時] ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
① <u>うしが洞地蔵（尻冷やし地蔵か）は、宝永8年（1711）に小栗金左衛門（笹谷・文蔵の祖先）が立てた。</u>
② <u>琵琶坂（琵琶峠）東側のうち、峠（頂部）からニツ岩までの6町10間は幕府領の10か村、ニツ岩から大湫宿（西口）までの5町までは大湫宿が工事を担当した。</u>
③ <u>大湫宿（東口）から山の神坂までの3町半は大湫村、やまの神坂からしゃれこ休石（しゃれこ坂）までの2町20間余りは幕府領10か村が工事を担当した。休石から雨堤までの3町50間は正家村（恵那市）、雨堤から檜木土橋までの11町は大湫村、土橋から三ツ城沢までの50町は釜戸村が工事を担当した。</u>
④ <u>有君（鷹司任子）様の通過の際（天保2年（1831）、ことさら入念に道を整備した。かりまくさ・あし又（足又）辻から檜ノ木坂まで、馬または人が背負って砂などを運び、昼夜を問わず、最終的には女性までが作業に参加した。大井村の人が作業を担当した場所は大井川（恵那市）から砂を運んできた。</u>
その他
（助郷や宿内の神社の由来など、多数の記載があるが省略）

(7)『中山道宿村大概帳』

江戸時代、五街道などの宿駅と街道沿いの様子を書き上げた書物です。人口は天保 14 年(1843) 調べが主ですが、安政年間(1854 年-1860 年) 頃のものも含まれます。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

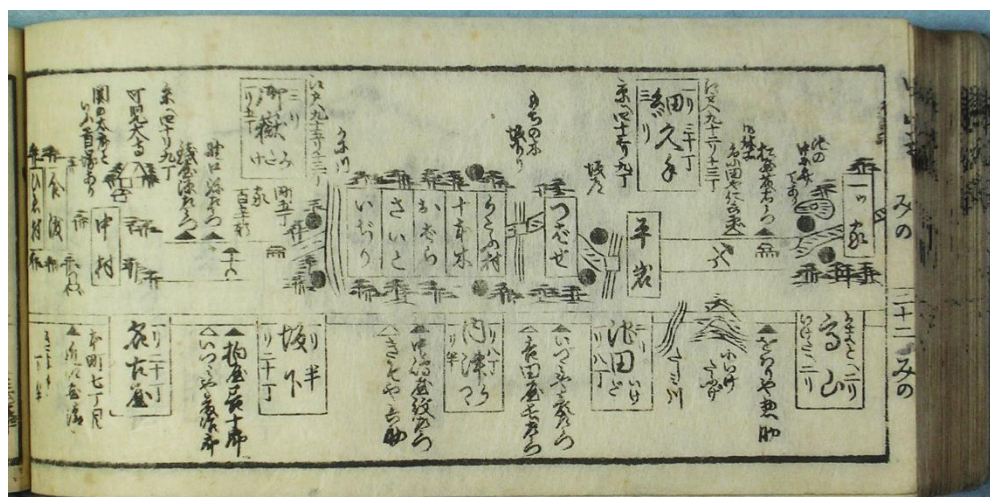
宿場の規模・家数
○大湫宿…宿並み 3 町 6 間、人数 338 人、家数 66 軒、旅籠屋 30 軒 ○細久手宿…宿並み 3 町 45 間、人数 256 人、家数 65 軒、旅籠屋 24 軒
地形・景観的な特徴
① 釜戸村内の道幅は 2 間～3 間で、自普請(周辺村落が費用を出して工事を行ったもの)である。茶屋ヶ根と新道には土橋、 <u>榎木には石橋</u> があり、3 つとも自普請である。 ② 大井宿から大湫宿の間には一里塚が 3 か所ある。 <u>大湫村内には一里塚が 1 か所あり、立木は松である。</u> ③ 大湫宿内には問屋場と高札場が各 1 か所あり、高札場は西町観音堂の前に建っている。また、道の両側で建物の無い場所は並木となっている。 ④ <u>大湫宿と細久手宿にかけての道路幅は 2 間～3 間で、八瀬沢に土橋がある。これらは自普請である。この間には一里塚が 2 か所あり、1 か所は左(南)の塚は大湫村内、右(北)の塚は日吉村内にある。もう 1 か所は日吉村内にあり、いずれも立木は松である。また、立場も一ツ屋に 1 か所ある。烏帽子岩と母衣岩という大岩もある。</u> ⑤ 細久手宿内には高札場が 1 か所、問屋場が 2 か所あり、高札場は宿の東入口に建っている。また、宿内に並木はない。 ⑥ 細久手宿から平岩村までの道幅は 2 間半から 9 尺。さが畑と梅の木に土橋があり、自普請である。また、細久手宿から津橋村までの道の普請は尾張藩が行っている。 ⑦ 細久手宿と御嶽宿の間には一里塚が 3 か所あり、1 か所は日吉村内にある。立木は松である。
その他
① 大湫宿、細久手宿とも、周辺の道路の掃除は普段は住人が行っている。ただし、大規模な通行の際は周辺の村に応援を頼むようにしている。

(8)『五街道中細見記』[安政5年(1858)]

旅籠組合のひとつ「東講」が刊行した『東講商人鏡』付録の携帯用道中記とされます。



[大井宿～琵琶峠]



[琵琶峠～御嶽宿]

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…(記載なし)
○細久手宿…(記載なし)
地形・景観的な特徴
① 大湫宿東方には一里塚の印である「●」が描かれ、山の神坂などの記載がある。
② 大湫宿西方には琵琶峠(やせ沢)、一里塚が描かれる。琵琶峠の東方には母衣岩と烏帽子岩が描かれ、峠からは「加賀の白山が見える」との記載がある。
③ 琵琶峠の西方には一つや(立場)、一里塚、弁天池などが描かれる。
④ 細久手宿西側に平岩(村)の記載があり、その西側に一里塚が描かれる。
その他
(特に記載なし)